

全国



第2242・3号

ぜんこくしぎかいじゅんぱう

市議会旬報

令和5年
(2023年) 10月15日毎月3回5の日に発行
発行 全国市議会議長会〒102-0093
東京都千代田区平河町2-4-2
代表 TEL 03 (3262) 5234
旬報 TEL 03 (3262) 5237
発行人 橋本 嘉一
https://www.si-gichokai.jp

議長会HP

第33次地制調
専門小委

国の統治システムの一元化・集権化

坊会長 地域の自主性・自立性の後退懸念

第33次地方制度調査会第19回専門小委員会が9月27日、全国都市会館で開かれ、デジタル・トランスフォーメーションの進展を踏まえた対応などについて地方六団体からヒアリングを行った。

今回のヒアリングは、9月11日の第18回専門小委員会で示された「総括的な論点整理(案)」に対する意見及び地方自治法改正を踏まえた取組について説明を求められたもの。坊会長は、総括的な論点整理(案)で示された▽デジタル・トランスフォーメーションの進展を踏まえた対応▽地方公共団体相互間の連携・協力及び公私の連携▽国民の安全に重大な影響を及ぼす事態への対応ーに関して意見を述べた。

地方自治法の改正を踏まえ

主権者教育を積極的に

その一環として、公立学校関係の全国組織に



坊会長(神戸市)

デジタル・トランスフォーメーションの進展を踏まえた対応では、人的・物的・財政的な制約が進む中、基幹業務システムの標準化や地方行政のデジタル化は不可避との認識を示す一方、国全体の統

当日の小委員会で坊会長は、地方自治法改正を踏まえた取組について、地方議会に対する住民の理解と関心を深め、多様な人材の地方議会への参画促進の一助とするため、三議長会で主権者教育に積極的に取り組むことと示している旨、述べた。

三議長会会長 鈴木総務大臣と面談

「主権者教育」への支援を



鈴木総務大臣(右から2番目)と坊会長ら三議長会の会長

本会の坊恭寿会長ら三議長会の会長は、第33次地方制度調査会第19回専門小委員会の終了後、鈴木淳司総務大臣を訪ねた。

面談では、今年4月に成立した地方自治法の改正について謝意を述べるとともに、今改正を

踏まえて、三議長会では多様な人材の地方議会への参画促進の一助とするため、主権者教育に積極的に取り組むこととしている旨、報告した。

政府においても、主権者教育の一層の推進を図るため、各議会や三議長会の取組等に対する支援を求めた。

地方公共団体相互間の連携・協力及び公私の利害、感情が絡むことも多いため、地域の実情を踏まえ、多様な方式を選択可能として、コンセンサスを得るために丁寧な手続の必要性を述べた。

また、国民の安全に重要な影響を及ぼす事態への対応では、国の指示権の発動要件を厳格に規定し、緊急性と適正手続の双方に目配りした仕組みを求めるとともに、指定都市に対する指示権の発動に当たっては、都道府県經由ではなく、直接やり取りする仕組みの構築を求めた。

正副会長
いわき市

合同会議提出議案を協議

福島第一原子力発電所現状を視察

本会は10月11日、いわき市で正副会長会議を開催。第233回理事会・第115回評議員会合同会議への会長提出議案や令和4年度本会各会計決算などについて協議した。

冒頭、坊恭寿会長（神戸市）があいさつを行った後、副会長の大峯英之いわき市議会議長が歓迎の意を表した。

正副会長は翌12日、東日本大震災の大きな揺れ



大峯副会長
(いわき市)

と津波に襲われた東京電力福島第一原子力発電所（福島県双葉郡大熊町・双葉町）及び東京電力廃炉資料館（同県双葉郡富岡町）を訪れ、福島第一原子力発電所の廃炉事業について説明を受けたほか、同発電所の現状を視察した。



正副会長会議の様相



令和5年度総務大臣表彰式

坊 会長が来賓として出席



式辞を述べる鈴木総務大臣

令和5年度市区町村長及び市町村議会議長総務大臣表彰式が10月5日、東京・全国町村会館で開かれ、本会から坊恭寿会長（神戸市）が来賓出席した。

表彰式では、鈴木淳司総務大臣からの式辞の後、表彰状並びに記念品の贈呈があった。表彰は、市区町村長として通算20年以上、地方議会議長として通算12年以上在職し、地方自治の発展に功労があったと認められる者が対象。今年度は市区議会議長の受表彰はいなかった。



来賓の紹介を受ける坊会長（神戸市）

議
会
人
事

議長

（詳細は後日掲載予定）

被災地視察参加者

（敬称略）

▽会長
坊 恭寿（神戸市）

▽副会長
大峯英之（いわき市）

大津亮一（水戸市）
南澤幸美（桑名市）
西田雄一（養父市）
白石義人（高松市）

副議長

▽陸前高田

▽八潮 及川修一（9・20）
▽海津 福野未知留（9・21）
▽立川 橋本武夫（9・22）
▽有田 頭山太郎（9・25）
▽宇和島 谷中恵子（9・26）
▽鹿沼 松本 孔（9・27）
▽柏原 田中秀昭（9・29）
▽羽曳野 樽井佳代子（10・2）
▽八代 田方芳信（10・2）
▽和泉 石原日出子（10・3）
▽北九州 田仲常郎（10・3）

副議長

▽陸前高田

▽海津 二ノ宮 貴（9・22）
▽有田 中西登志明（9・26）
▽鹿沼 石川さやか（9・27）
▽宇和島 梶山三也（9・27）
▽座間 高波貴志（9・29）
▽本巣 今枝和子（9・29）
▽柏原 梅原壽恵（9・29）
▽裾野 杉山茂規（10・2）
▽八代 金子昌平（10・2）
▽和泉 松本利裕（10・3）
▽羽曳野 渡辺真千（10・3）
▽北九州 本田忠弘（10・3）
▽えびの 松窪ミツエ（10・3）

新庁舎落成

▽宇土市（熊本県）

〒869-0492

宇土市浦田町51

電話番号、ファクス番号

は変更なし

傍聴席はバリアフリーに配慮し、車いす席やゆるやかなスロープ、聴覚障害者などの設備が設けられているほか、授乳室や多目的トイレも設置されている。



宇土市役所新庁舎
(写真提供=宇土市)



議場
(同左)

基地協 正副会長・監事・相談役会

理事会に向け 要望書案を協議



武藤基地協会会長
(福生市)

全国市議会議長会基地協議会（会長＝武藤政義 福生市議会議長）は10月

3日、昭島市で正副会長・監事・相談役会を開催（福生市主催）。令和6年度政府予算編成に向けた要望（案）などについて協議した。

武藤会長は冒頭あいさつで、令和6年度の防衛省概算要求額が過去最大の7兆7385億円となったことなどに触れ、基地・調整交付金および基地周辺対策経費の所要額確保など最重要事項について強く要望していく必要性を述べた。

続いて、加藤育男福生市長からあいさつがあり、また、来賓として出席した。

在日米軍横田基地第374空輸航空団司令官のアンドリュース・L・ラダン大佐、航空自衛隊横田基地の石井浩之司令、防衛省北関東防衛局の二又知彦局長がそれぞれあいさつした。

協議では、基地対策関係施策の充実強化に関する要望（案）について原案通り11月6日開催の第107回理事会に提案することを了承した。

要望（案）では、基地調整交付金375億4000万円（対前年度同額）及び基地周辺対策経費（契約ベース）1406億円（対前年度139億円増）の満額確保、特定防衛施設周辺整備調整交付金の所要額確保などを求めている。



加藤福生市長



ラダン在日米軍
横田基地大佐



石井航空自衛隊
横田基地指令



二又防衛省北関東防衛
局局長

自治体病院に関する要望

- 1 財政措置等
- 2 医師確保対策等
- 3 医師等の働き方改革
- 4 新専門医制度
- 5 救急医療
- 6 地域医療構想
- 7 自然災害時等の医療確保
- 8 新型コロナウイルス感染症への対応

※本会ホームページに全文掲載

病院協 正副会長・監事・相談役会議 経営基盤安定化 要望を決定 医師不足の早期解消

全国自治体病院経営都市議会協議会（会長＝山田幸名 寄市議会議長）は10月5日、松江市で正副会長・監事・相談役会議を開催し、「自治体病院に関する要望」を決定した。

冒頭、山田会長からのあいさつに続き、吉金隆副会長（松江市議会議長）、上定昭仁松江市長が



山田病院協会会長
(名寄市)



吉金副会長
(松江市)



上定市長
(松江市)

あいさつした。

会議で決定した要望書は、自治体病院が地域社会維持の重要インフラとしての役割を果たすため

には、経営基盤の安定化や医師不足等の早期解消が不可欠であると強調し、自治体病院に関する財政措置や医師確保対策などについての8項目を要望している（左上に掲載）。

特に課題となっている財政措置等については、小児医療、救急医療、精神科医療、へき地医療、高度医療、周産期医療等の政策医療や不採算医療について十分配慮し、病院事業に係る地方交付税措置を更に拡充することなどを求めた。



市議会が進める独自の取組を毎月紹介する時事通信社 iJAMP「市議会最前線」。10月は福井県越前市議会が取り組む「ICTと市民の意見を活かし議会改革進行中！」を紹介しています。

本記事は、本会ウェブサイト「議会改革の取組」でご覧になれます。

☑ トップページ > 議会改革の取組 > iJAMP 市議会最前線

第7回

うるま市

監事市紹介



市章

世界遺産 勝連城跡
(写真提供=うるま市)

【市の概要】

▽人口 12万6290人
(令和5年9月1日)▽面積 87.02km²

▽歴史・沿革 沖縄本島の中部東海岸に位置する

うるま市は、平成17年4月1日に隣接する具志川

市・石川市・勝連町・与那

城町の2市2町が合併して誕生した。有人離島を

含む8つの島々や海中道路など、美しい風景と豊かな自然環境に恵まれた

風光明媚なまちです。勝連城跡はじめ、歴史遺産

や文化財が数多く保存され、エイサーなどの伝統

から電子表決システムの運用を開始した。

議長の話

ひがなおと 議長
比嘉直人

文化が若い世代にもしっかりと受け継がれている。▽シンボル うるま市の「う」の文字を図案化したもので、赤は太陽、緑は大地、青は海をイメージ。豊かな自然の輪の中で市民の融和と平和を表現し、金武湾と中城湾に面して発展する「うるま市」の明るい未来と更なる発展を象徴している。

【議会の概要】

▽議員定数 30人(現在・男性28人、女性2人)

▽前回選挙 令和4年10月2日。立候補者35人。投票率49.14%

▽議会トピックス 市議会だよりでは、題字依頼や表紙写真公募など、市民参加の紙面づくり、ホームページでは、コンテンツ充実に取り組んでいる。令和3年にはタブレットを導入し、ファイナル共有システムやビジネスチャットの活用、今年

「さんごの島」という沖縄の古語から名付けられたうるま市は、沖縄本島中部東海岸に位置し、世界遺産の勝連城跡をはじめ歴史的な遺産が点在し、エイサーや闘牛などの伝統文化が継承され、四方を海に囲まれた海中道路や手つかずの自然・原風景が残る観光地として愛されています。今年には市独自の感動産業特区宣言をし、市内の中・高校生だけで演じる舞台劇「肝高の阿麻和利」を地域振興のアンバサダーとして、市の魅力を首都圏へ発信する事業を展開しております。魅力溢れるうるま市へ是非お越しください。

-2040- in 新見
未来ビジョン出前セミナー西村 ケンジ
ワークヴィジョンズ
代表取締役

本会が主催する「2040未来ビジョン出前セミナー」が8月9日、新見市で開かれた。セミナーでは、株式会社ワークヴィジョンズ代表取締役の西村浩氏が「空き家の増大と住宅政策―人口減少社会とスポンジシティの未来―」と題して講演した。

西村氏は、郊外化と中心市街地の空洞化への対策として、同社がオフィスを構える佐賀市の中心市街地活性化のために取り組んだ「わいわい！コンテナ」事業などの事例を紹介しながら、中心市街地の衰退によって発生した空き地や駐車場などの低未利用地を活用したまちづくり、地域活性化を提案している。

その中で、突然ビルを建設するなど大規模な再開発事業ありきではなく、空き地を活用して芝生広場を作り、そこを子ども遊び場や商業スペースにして、子育て世代の人々を集めるなどの小さな成功事例を目指して失敗を恐れず取り組むことが重要だとした。

小さくとも人が集まる事業に成功すれば、それに伴って周辺の商業も活性化し、居住者も増え、地価や賃料も上がり、税収も増えるという好循環を生み出すことが、今後のまちづくりに必要であると述べた。

そして、事業の成功のためには▽街の未来を指してやりたい事を想像する「妄想力」▽それを具体的かつ持続可能な事業にする「構想力」▽覚悟と責任、勇気を持って事業を実践する「実行力」―を揃える必要があると提唱。そのためには、官民問わず多くの人の協力や、縦割りを排した横

佐賀市「わいわい！コンテナ2」の様子
(写真提供：ワークヴィジョンズ)

の連携が必要と強調した。また、街が今後も存続するためには、将来を担う子どもたちの存在が不可欠であるとし、子育て世代のための公園整備や、車通りが少なく安心して街の中で過ごせる「ウォーカブルな街づくり」を通じて、将来を担う世代が中心市街地にいるという状況を作り出すことが重要であるとの考えを示した。

西村氏は「人口減少時代に生き残る都市の条件は、魅力と人気があがる街になっているか否か。ハコモノ作りから始めては成功しない」と結んだ。